

令和2度 小林市立南小学校 自己評価書

N.O. 4

評価段階 4 : 期待以上 3 : ほぼ期待どおり 2 : やや期待を下回る 1 : 改善を要する

学校経営ビジョン	○ 一人一人主体的に「確かな力（知・徳・体・食）を身に付け、自信と誇りをもち、夢や希望の実現を目指す自立した人材を育成する。 — かしこく やさしく たくましく —
----------	---

〈食 育〉

○ よりよい食習慣を身に付け、食を豊かにする子どもの育成

評価項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析及び改善策
				取組別	総合	
食育	1 家庭、地域と連携した食に関する指導の充実	○ 地域人材・食材等を活用した食育の展開	○ 養護教諭と連携して、食に関する指導の充実を図る取組を進める。 ○ 保健だより、給食だより等を通じて、保護者へ食育への啓発を図る。 ○ 6年児童が「こばやし食育教室」に参加し、食に関する意識を高める。	3	3	・給食において、郷土料理の献立に加え、牛、鳥、米、マンゴーなどの地産地消の食材提供があり、食に関する意識の高まりが見られた。
	2 弁当の日、調理体験活動の推進と心の教育の充実	○ 学年の発達段階に応じた取組 ○ 感謝の心の醸成	○ 遠足時に「弁当の日」を設定し（春の遠足は未実施）、発達段階に応じた取組をさせる。 ○ 本年度は、調理実習を実施していないため、家庭で調理に関わる機会を設けるよう呼びかける。	3		・コロナ感染対策のため調理実習は実施できなかつたが、長期休業中に自宅での調理体験を呼びかけた。 ・弁当の日は春の遠足では実施できなかつたが、お別れ遠足で実施する予定である。
	3 一人一人に応じた給食指導と食事マナーの徹底	○ 残菜量2%台以下の維持	○ 月毎に残菜調査を行い、残菜量を職員で確認したり、給食コンテナ室前に掲示したりして、残さず食べる意識を高める。 ○ 毎日の給食指導において、マナーや偏食指導を行う。	3	3	・残菜率は少なくなってきた。 ・コロナ感染防止のため、各学級で無言で静かに給食時間を過ごせるようになってきた。
	4 食を通したふるさと教育の推進	○ 食文化への理解と生産者の思いの享受	○ 給食感謝週間において、給食に携わる方々への感謝の手紙やメッセージを送り、食への感謝の意識を育てるようにする。	3		・給食に関わる仕事について考えさせる機会をもつことによって、給食にはいろいろな方々が関わっていることに気付かせることができた。

次年度の方向性についての校長所見	<p>1 本年度の取組について 本年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事や活動が中止や縮小されたが、感染対策を講じながら実施方法を工夫し、保護者や地域の方々の理解・協力をいただき、可能な限り実施の方向で取り組み、成果を残すことができた。</p> <p>2 次年度への改善に向けて 次年度も前半は、コロナ対策で活動の制限を強いられると思われるが、本年度同様、実施方法を改善しながら、教育効果を上げる取組を進めていきたい。特にG I G AスクールにおけるI C T機器を有効活用した取組を積極的に進めていきたい。</p>
------------------	--